

特定非営利活動法人文化学習協同ネットワークのとりくみ ～居場所・社会参加そして発達保証～

1. 「協同ネット」の沿革

- 1974年：地域の教育要求を受け、親たちが設立資金を拠出し、学習教室としてスタート
- 1993年：不登校の子どもたちの居場所・学びの場「フリースペースコスモ」設立
- 1997年：「文化学習協同センター」（自前の活動拠点）設立
- 1999年：NPO法人格を取得「特定非営利活動法人文化学習協同ネットワーク」として出発
- 2004年：「コミュニティベーカリー風のすみか」開設
- 2005年：厚生労働省「若者自立塾」受託
- 2007年：厚生労働省「地域若者サポートステーション」受託
- 2008年：東京都「若者社会参加応援ネット コンパス」受託
- 2009年：若者支援事業の拠点を下連雀4丁目（三鷹駅前）に移して展開中

2. 「協同ネット」3つの事業の柱

①子ども発達支援事業

- ・フリースペースコスモ
- ・特別支援教育事業
- ・こども土曜教室
- ・冒険遊び場
- ・サマースクール、スキーツアー等
- ・「OYA」の会
- ・文化学習センター（併設）

②若者自立支援事業

- ・みたか地域若者サポートステーション
- ・相模原地域若者サポートステーション
- ・合宿型若者自立プログラム
- ・交流スペース「コンパス」
- ・西東京市被保護者ひきこもりネット対策事業
- ・武蔵野市引きこもりサポート事業
- 各種セミナー等

③コミュニティビジネス（ソーシャルエンタープライズ）事業

- ・コミュニティベーカリー風のすみか
- ・ニローネ風のすみか農場
- ・IT事業プロジェクト（2009年度より準備開始）

3. すべての「支援」活動の基礎として「生命への畏敬」ということ

- ①「消費行動の客体」としてではなく、「タックスペイヤーになってもらわなきゃ困る」でもなく
- ②生きていることそのものに価値をおいて接しているか
～良く生きていたねえ,生きていてくれたねえ
→「生殖機能を失った女性が生きているとは…」
「枯れ木に水をやるものが居るか…」

4. 「支援」活動の基礎 その2 自立は「権利」

- ①自立を「義務視」する発想の根強さ
- ②基本的な人としての権利を保障するのは社会及び国家の責任

5. 「協同ネット」の支援論

- ①「就職支援」でもなく「成績向上支援」でもなく,あくまでも「発達支援」であるということ
- ②それは「自分を生きる主体をたちあげる手助け」ということ
欲求する主体 ↔ 欲求しない現実
つながる主体 ↔ 孤立している現実
制作する主体 ↔ 「消費者」におとしめられている
つまりは「自らの存在基盤を再生産する主体」

6. そのために必要なこと 人と社会と自分への信頼の回復

- ①人は共に生きるに値する
- ②この社会は生きて行くに値する
- ③ひいては,自分も生きていて良いかなあ, 良いだろうなあ
- ④そういう「実体験」のフィールドとしての「居場所」あるいは「中間支援機関」
- ⑤人はなにによって動くのか

7. 対極としてのシュン君の苦しさ

- ①義務視された「自立」
- ②おどし・叱責・罰則による「支援」の現場にいて…
- ③「自分の・いま」から出発する為の基盤の崩壊,そして苦しみ

8. 協同ネットの居場所論

- ①なによりもほっと安心できる安全な場であること
→「評価的まなざし」からの解放
→「攻撃的他人」からの自由
→「ニュートラルになれる必要」とアキは言った
- ②人と人との関係がひらかれていく場であること
→孤立を越える基地であること
→「意味ある他人」との出会い
→ロールモデルの存在

→語りの中でこそ現実が構成されていく(コトバにすること,承認されること)

③自分探しの学びが生まれる場であること

→社会に開かれた学びがあるということ

→自分の生きる現実がみえていく学び

→相互評価と自己評価

→「枠組みの中でこそ自由になれる」とワタルは言った

9. 中間的支援機関としての「働く現場」

① Learning By Doing ということ

②「生きるに値する社会」への参加と創造

③なによりも「協同の営みへの誘い」であるということ

④「自分の生がなんかいいことにつながってそう」な予感(実感?)

10. マサトくんの場合 ～生保担当職員との強力な連携

① CWおよび就労支援員の粘り強い働きかけと連携

② 1.5年してようやく「自立塾」に入塾

③「働くことの意味」の認識

④そして、その結果のひとつとしての就労

11. われわれの活動は、三鷹市「子ども若者自立支援事業」へ

①事業内容1：不登校状態にある被保護世帯の子どもに対する支援事業

②事業内容2：被保護世帯の子どもの発達支援・学習支援と高校進学サポートに係わる事業

③事業内容3：被保護世帯でひきこもり・ニート状態にある若者に対する支援事業

12. 「評価軸」の問題 ～「費用対効果」の罫をこえる

①親和的で説得的な「評価軸」を設定する必要

～短期的で短絡的な「費用対効果」をこえるために

② 09.12.30 閣議決定の「新成長戦略(基本方針)～輝きのある日本へ～」の「3. - (1)」

「数値としての経済成長率や量的拡大のみを追い求める従来型の成長戦力とは一線を画した。…

「幸福度」(well-being)の向上であり … 国民の「幸福度」を表す新たな指標を開発し、その向上

に向けた取組を行う。」と述べているが、この“Well-Being”をホンキで指標にしていく

13. ちょっと大きな話として

①ディーセントワークが進まない限り「支援」はない

②NPOワーキングプアではないありがた

→委託要件の法令化・条例化

③対等なパートナーとしての民間と行政

→キーワードは「一緒にやりましょう」

人々の生活権 を守る

地域生活指導へのアプローチ

3 若者自立支援の現場で

「ひきこもり」「ニート」よばれる 若者たちのかかわりあいの中から

特定非営利活動法人文化学習協同ネットワーク 若者自立支援事業統括責任者

藤井

智

若者の「自立」に向けた「困難状況」の中、文部科学省、厚生労働省、経済産業省、内閣府による「若者自立・挑戦戦略会議」が取りまとめた「若者自立・挑戦プラン」(二〇〇三年六月)をうけて、二一世紀に入ってから「若者自立支援」のとりくみははじまっている。

私たちの法人も、厚生労働省「若者自立塾」(二〇〇五年年度)、「地域若者サポートステーション」(二〇〇六年年度・当法人の受託は〇七年度)の委託を受け、東京都三鷹市を拠点に活動を進めている。また、二〇〇八年度は東京都が独自に展開する「東京都若者社会参加応援ネットワーク」(ひきこもり等の若者の社会参加を応援するため、東京都がNPO法人等との協働により、支援を

行うネットワーク)にてリースペース運営の委託を受けている。

本稿では、委託事業を中心とした当法人の若者自立支援プログラムについて、事例を交えながら紹介し、「若者の自立支援」とはどういう事なのかを考えあいたい。

●NPO法人文化学習協同ネットワークの運動

一九七〇年代にはじまった私たちの運動は、子どもたちの学力保障を目的にした学習教室「文化学習センター」の運営と、不登校の子ども・青年たちのリースクール「コスモ」の運営を中心に展開してきた。

一九九〇年代後半にはいると、青年期の教育相談がもちかけられるようになり、また、コスモで育った若者たちの「次」をどうするかという問題意識から、しだいに「若者支援」の取り組みをはじめようになる。

しごこの世界への「つながぎ」を意識した連続講座「スクール・トゥ・ワーク・セミナー」では、様々な業種の職業人をゲストに迎え、そのしごとに至るまでの経緯やしごとの上の困難、そして喜びについて語ってもらい、ゲストの職場を見学し、ときには体験させてもらった。

「新しい生き方・つながり発見マガジン」と銘打った季刊雑誌『カンパネラ』は、若者たち自身が企画編集をし、プロの編集者の指導・援助を得て出版され、書店にも並んだ。

そういった取り組みを通じて就労やアルバイトに向かった若者たちは、しかし、傷ついて戻ってくることも多くあった。「働くことそのものの体験を、失敗が許される場で出来ないか」「自分のはたらきが、いいこと」につながっている実感をもちながら、はたらくことや人や社会に対する信頼を回復できるような仕組みを作れないだろうか」と、強く思うようになってきていた。私たち

は次第に「働く現場で働くことを学べる場」を意識するようになる。そして二年近くの準備期間を経て、二〇〇四年九月、「コミュニティベーカリー「風のすみか」」を開設した。

「風のすみか」は「①若者が働くことを学び、学ぶことを通じて働く場、②手間暇かけて作った美味しいパンを提供するパン屋、③つくる人と食べる人が共につくる、地域の顔の見えるパン屋」という三つのコンセプトをもった、全品天然酵母のパン屋だ。

パンの製造から販売まで様々な仕事があり、その仕事の過程ひとつひとつに、たくさんのお出合いがある。同じような困難や悩みを持つ同世代との出合い、自分を支えてくれるスタッフやボランティアとの出合い、「すみか」を愛してくれるお客さんとの出合い、「安全な食べ物」への思いをもつ生産者たちとの出合い、そしてそういう中で成長していく自分との出合い。そうして、若者たちの社会がだんだんとひろがっていき、より豊かな社会参加へと向かっていくことを目指している。

● 孤立を越える

「風のすみか」開設翌年の二〇〇五年、厚生労働省「若者自立塾」事業がはじまった。「三ヶ月で終了の合宿型プログラム」であるという「期間の問題」や「成果の数値目標」等、支援現場の経験に基づき熟考すべき問題は多々あるのだが、「受益者負担の自己責任」で若者の支援をすることに限界を感じていた私たちも企画競争に参加し、受託することとなった（「若者自立塾」は〇八年度、全国に二九カ所）。二年后には若者の総合的な相談窓口である「地域若者サポートステーション」（二〇〇八年度で全国には七七カ所設置されているうちのひとつ）を受託する。〇八年度は、東京都「コンパス」の事業も受託している。

相談に訪れる若者にとって、孤立をいかに越えるかというところが、まず第一の課題になっている。「ひきこもり」や「ニート」状態の若者たちが、いかに孤立無援であるか、そしてそれが彼らをいかに無力化させているか、若者支援事業のスタッフは日々実感している。

二十歳になる直前に「息子を若者自立塾に入塾させた」ということが、まず第一の課題になっている。「ひきこもり」ということが、まず第一の課題になっている。「ひきこもり」や「ニート」状態の若者たちが、いかに孤立無援であるか、そしてそれが彼らをいかに無力化させているか、若者支援事業のスタッフは日々実感している。

● 関係性の困難と「自分という存在」

若者たち自身が自分の「困難さ」として十中八九言葉にするのが「人間関係の苦手さ」であり、もうひとつは「自分が何をしたらいいのか分からない」ということだ。私たちの支援活動はまた、彼らが人や社会に対しての信頼を回復すること、そして自分という存在を意識し、主体化することを目指すことも課題となる。

リョウヘイは大学不登校ひきこもりの経験を持つ。自立塾への入塾は母親に紹介されて「今の生活から逃げたかったから」。「自立塾に在るだけの現状、塾に居場所を

い」と母親に連れてこられたタカノリは、あきらかに嫌々来ているようであった。三ヶ月の塾生活と若干のフオーアップ期間の後、ハローワークの紹介でIT関係の会社に就職していったのだが、彼は私たちの所に連れてこられた当時のことを「周りが真っ黒に塗り固められているみたいだった」と表現する。

アトピー性皮膚炎にコンプレックスを感じるタカノリは、自分を主張できるのは勉強だけと言わんばかりに中学校までは必死に頑張ってきたのだが、高校時代とうとう「息切れ状態」になってしまい、大学受験がうまくいかなかったことでひきこもりの生活に入る。両親、とくに父親との関係も悪くなり、日中は自室から出られない状態だった。「何とかしなくちゃ」とは思うのだが、一体なにをどうすれば「何とかなる」のか、皆目見当がつかなかったという。それでも唯一自室に在ること、自分の最低限の「安全」を守っていたのだが、母の強いすすめがあり、いつまでも自室にこもっていることもできなくなり、「やけのやんばちで」私たちのところに連れてこられた。

「若者自立塾」に来て彼がすぐわれたのは、「なんかよ作りたけいけど対人不安もあつてどうせ作れない現実」から逃れるために、自分の苦手な対人関係がより少なくなると思える金属加工の工場でのアルバイトとして就労し、アパートをかりて卒業していった。やがて職場の人間関係に入り込めないことに苦痛を感じはじめ、一年ほどすると「工場を辞めたい。以前他の子がやってた、NPOの職員研修生」として受け入れてくれ」と言い出すようになる。

私たちは、工場を辞める辞めないは別にして、本当に「職員研修生」として受け入れてほしいなら、今までの自分と今後どうしたいのかを丁寧に記述してレポートするようにと課題を出した。この「レポートを作成すること」を柱に定期的に面談するようにした。そしてこの「レポート作成」も終盤に入る頃、リョウヘイは職場の部長に「退職したい」と申し出た。

「今日は部長に『退職します』と言うんだ」と決めた日はものすごい緊張感だったが、「今日はこれをやるんだ」ということがあるだけで、通勤の道のが少し違って見えたと言う。ところが部長は「君の言うことは分からなくはないが、じゃあ自分はどうしたいのかが全然分から

ない。一体何がしたいの？」と一蹴。自分の思いを意識することなく「イマ・ココじゃない、ザニカ」ばかりに逃避してきていた自分を意識させられた。

私たちは、安易に結論は出さず、今度はやはりリョウヘイに真剣に悩んでもらおうと決めていた。「部長には言ったけど納得してもらえなかった」と「レポートづくり面談」でボソボソと話す彼に、「職員としての研修だつて、君にとつてそうそう楽なものじゃない、かなり厳しいものになるはずだ」と「追い打ち」をかけた。

彼は部長に何度も掛け合い、そのたびに彼の退職願いは却下された。時には緊張してしつかり話せないからと言いたいことを紙に書いて行つた。時には「今辞めたいと思つている現実を、越えるべきハードルだと思え」と言われて逆に褒に納得したりした。そしてそのたびに「面談」の中で、部長に言われたことと自分の思いを振り返り、時としてスタッフに「追い打ち」をかけられた。

ところが彼はそのうち、これらのやりとりを「はじめ自分が主体的に動いている」と言うようになる。そして彼は部長と私たち職員を評して「大人と呼べるような

人にはじめて会つた」とレポートに書いた。そして「辞めたい辞めたいばかりで現状から目をそらし続けていたころに比べてだんだんと足下が見えるようになった」と言う。

同時に彼の「仕事以外」の時間も充実してきた。今まではただ「機械のように」働いて、食事をして、寝るだけという生活だったのだが、自立塾の寮で、現役の塾生と一緒に食事を作つて食べて帰る曜日をもつようになり、また「文化学習センター」でスタッフのボランティアをはじめた。そして週に一度、自分の好きな将棋をやる時間と仲間を見つけて、遅くまで楽しんでる。

やがて「ただやけくそに辞めたい辞めたいと思つていた気持ちがおさまつてきて、もうちょつと続けてみようかな」と思うようになってきた。そして、「この一連の毎日はかなりしんどかつたけど、なんだか楽しかつた気がする。いつも他人のことばかりを意識しすぎて自分を無視していたけど、今回は、主体的に動く」ということを垣間見せてくれた。結局は自分で決めたと言うよりも、部長に説得されたみたいな形で職場に残ることになったけど、こういうことを積み重ねないと自分で決断できる

ようにはならぬだろうから、今はこれでいいやと思う」と「レポート」に記述し、一端このレポートを締めている。

リョウヘイにとつて、ある必然性をもつて、「手応えのある他者」があらわれて、「手応えのある現実」が立ちだかつたと言つことなのかも知れない。そしてその中ではじめて、「自分という主体」が見えてきて、それを「楽しい」と、リョウヘイが感じたと言つことなのだろうか。

●「若者を支援する」とはどついつことなのか

若者の自立支援の施策は、一方で「個人が（自分の責任で）エンプロイアビリティを高めなさい、そのためのある程度の援助はします」といった傾向のものが多い。

「カウンセリング・セミナー型」とでもいつたらよいだろうか、個人の「職業意識の涵養」であり、個別の「適職の発見」であり、個人の「スキルの獲得」を目指すものだと述べて良いかと思う。私もこういつた支援を一概に否定するものではない。局面においては重要な役割を

果たすであろうと思う。

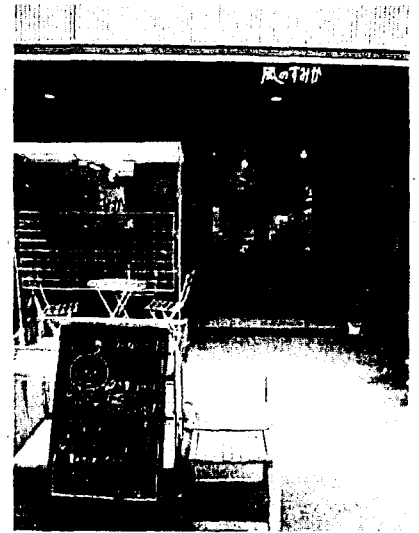
ただもう一方で大切にしたいことは、若者たちがどういう社会と出会い、どんな社会を制作していくのか、ということだ。そして私たちは、その中でどうやって自分という存在を立ち上げていくのかということを意識しているのだ。

そして、そのフィールドは「カウンセリングルーム」や「研修センター」というものにとどまらず、社会そのものである必要があるだろう。あわよくば「いい人」「良い職場」「良い社会」と出会うことで、若者たちの中に「人つてもに生きるに値するな」「社会つて生きていくに値するな」、ひいては「自分つて生きるに値する人間だな」ということをたくさん感じてほしいと願っている。



合宿型若者自立プログラム

5年間「若者自立塾」を運営してきた文化学習協同ネットワーク（協同ネット）では、若者の社会的自立をサポートする、6か月の共同生活を通じた就労支援プログラムを開講します。当法人所有の研修施設『風のすみか』でのベーカリー実習を中心としたさまざまな体験の中で、「働くことの喜びや、働く自信」を手にしてもらいたいと思っています。



実技 ベーカリー実習

「安全な材料でつくったおいしいパンを、顔の見える関係で提供したい」・・・そんなコンセプトをもったコミュニティー・ベーカリー『風のすみか』は、働くこと、社会に参加することを目指す若者が、働きながら学ぶことのできるパン屋です。



パンの袋詰め

お客さんに届けるパンをていねいに袋に詰めながら、すみかのパンの名前や特徴を知っていきます。

パンの配達

すみかのパンは店売りだけではなく、安全でおいしいパンを、地域の保育園や学校、高齢者施設、個人宅に届けます。

ワンデイショップ

地域の様々な職場や、イベントに出張販売に出かけます。接客の仕事は少し大変ですが、それまでの仕事にはない緊張感やふれあいがあります。

店舗研修

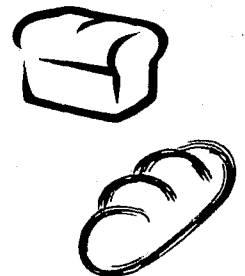
接客、品出し、店内清掃、気持ちのよいお店づくりなどの仕事です。時間数や仕事の種類も増え、おぼえることも増えてきます。

工房内の作業

洗い物、清掃、小麦粉の計量などのやさしい仕事をしながら、工房内の仕事のことを知っていきます。

簡単なパンの成形

翌日のパンの準備を中心に段々と生地に触れ、丸めなどの基本的な成形技術を身につけていきます。



学科

マナーの基礎講座

挨拶・電話対応・身だしなみなどのマナー知識について実践を振り返りながら学びます。

コミュニケーション講座

体を動かすワークショップなどを通じて労働に必要なコミュニケーションスキルの向上をめざします。

パソコン講座

ワードやエクセルなどパソコンの基礎的な技術を習得します。

このほかにも **働き方講座** や **職業人講話** などの講座や就職セミナー等を実施します。



合宿型若者自立プログラム 募集要項

【訓練期間】平成22年6月1日（火）～平成22年11月30日（火）

【対象条件】

- ・概ね40歳未満の男女
- ・義務教育を修了しており、1年以上無業状態（アルバイトを除く）であること
- ・本人の意志で受講を希望していること
- ・現在通院中の方は、担当医が合宿型プログラムへの参加を許可していること

【申込方法】当団体で面談（要予約）後、「受講申込書」を最寄りのハローワークに提出し、受付印を押してもらってください。この手続きが終わったら、当団体にお申し込みください。（詳細は別紙をご覧ください。）

【申込締切】平成22年4月26日（月）
この日までにハローワークに「受講申込書」を提出してください。
その際、「受講申込書」には次のようにご記入ください。

〈訓練番号〉	認21-13-04-21-0884
〈訓練コース名〉	社会的事業者等訓練コース（合宿型訓練）
〈訓練分野名〉	社会的事業
〈訓練科名〉	社会的事業者等訓練コース科

〈訓練施設の所在地〉	東京都三鷹市下連雀1-43-3
〈訓練施設の名称〉	文化学習協同センター

【選考】申し込み受付後、個別に選考日時を設定します。

【結果通知】平成22年4月30日（金）以降に「選考結果通知書」を発送します。

【費用】80,000円／1か月（居住費・食費等 ※教材費・交通費等は別途実費負担）

【支払方法】前月末日までに翌月分費用を納入してください。

合宿型若者自立プログラムは、「訓練・生活支援給付金」（100,000円／1か月、受給要件あり）の申請を行うことができます。手続きは当法人のスタッフがサポートします。

【問い合わせ先】



特定非営利活動法人 文化学習協同ネットワーク

《若者自立支援事業部》

〒181-0013 東京都三鷹市下連雀4-15-31-101

TEL 0422-70-5067（月・火・木・金・土曜日10:30～17:30）

FAX 0422-29-9571

E-Mail center@npobunka.net ホームページ <http://www.npobunka.net>

子どもと若者が 社会へ飛び立つ根拠地に

協同ネットは、ずいぶん前から子どもたちが
の“居場所”づくりに取り組んできた。こ
の登校の苦しみや進路の悩み、
なことでも聞き取られ、語り合
だいに自分の中にある可能性を
てそこから飛び立っていくこと
る空間、それが居場所です。社会的
時を迎えて、その入り口で立ちすくんでし
っている若者たちにもそんな居場所が必要
です。同じ時代（いま）を生きる若者たちが
相互に出会い、いろいろな体験を通して学
びあい、自信を回復しながら、社会に、しごと
の世界に飛び立っていく根拠地です。協
同ネットは、学校や福祉機関や就労支援
機関などとネットワークを広げながら、発
達支援から就労支援まで、子どもと若者を
総合的に支援しています。

特定非営利活動法人
文化学習協同ネットワーク
(協同ネット)

〒181-0013 東京都三鷹市下連雀1-14-3
<http://www.npobunka.net/>

みたか地域若者サポートステーション

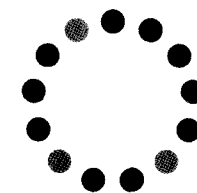
TEL: 0422-70-5067

コスモワーキングスクール

TEL: 0422-70-5068

交流スペース コンパス

compass@npobunka.net



KYODO NET

協同ネット 若者支援への取り組み

みたか地域若者サポートステーション
コスモワーキングスクール
交流スペース コンパス



JR三鷹駅(南口)より
三鷹シティバスにて「ジブリ美術館」下車
JR・京王 吉祥寺駅(公園口・丸井前バス停)より
全てのバスにて「万助橋」下車

やり直したいきみに。
やり直せる場所を。

みたか地域若者 サポートステーション

若者のための総合相談窓口
(厚生労働省委託事業)

そろそろ働きたいと考え出している方、どこに相談に行ってい
のかわからず困っている方、あるいは仕事に就いても長続きせず
にすぐにやめてしまう方——サポステは働きたいのに働けない若
者の最初の一步を支えるための総合相談センターです。新しい
自分づくりと仕事探しへの挑戦を応援します。

経験豊かな

ユースアドバイザー(YA)が、
若者たちをさまざまな
チャンスにつなげます。

(支援内容)

相談支援

進路、進学、人間関係などどんな相談にも応じます。

キャリアサポート

仕事体験、就職セミナー、パソコン講習など、
就職につながる学習機会を提供します。

専門機関への紹介

ハローワークやジョブカフェなどの就職支援機関や、
要望があれば他の医療・福祉機関などに紹介します。

家族サポート

保護者セミナー(月1回)

若者理解や就職支援のあり方など、家族対象の講座・講演。

保護者相談室(予約制)

お子さんの状況を聞きながら支援のあり方についての相談。



※相談は無料。
その他のプログラムも基本的に
無料ですが、食事代や旅費などは
実費をいただきます。

コスモ ワーキングスクール

働きながら働くことを学ぶ若者自立塾
(厚生労働省委託事業)

若者自立塾・コスモワーキングスクールは、
協同ネットが厚生労働省の委託を受けて開
設した“働きながら働くことを学ぶ”若者たち
の学校です。併設のパン工房での労働体験、
パソコン・調理技能講座など様々な実習の
場があります。全寮制・宿泊型の研修では、
社会へ足を踏み出す勇気ももてずに立ち止
まっている若者たちを応援します。

(カリキュラム)

生活自立プログラム

宿舎での共同生活を通して、栄養・衛生・健康・
家計管理など生活自立の基本を学びます。

グループワーク

ミーティングによる共同生活の自主的運営や、
様々なグループカウンセリングなどを通して、
コミュニケーション力を高めます。

仕事体験

併設のパン工房での労働体験のほか、希望に
応じて様々な職場を訪問、仕事を体験します。

就労準備プログラム

パソコン講習、履歴書書きほかの就職セミナー、
併設のサポステや、ジョブカフェなどの
就職支援機関のセミナーに参加します。

(東京都委託事業)

コミュニケーションに不安のある若者、いろんな人や世界に
出会ってみたい若者のための“居場所”です。
ワークショップ、スポーツなど様々な社会参加プログラムも用意します。



若者自立塾

厚生労働省・若者自立塾創出推進事業



併設施設

コミュニティベーカリー 風のすみか

若者がパンを焼き、地域の人々に届けるパン工房。
多くの研修生が働く仕事体験の場です。

「安全な材料で作ったおいしいパンを、顔
の見える関係で提供したい」——そんなコ
ンセプトを持ったコミュニティベーカリー
「風のすみか」は、働くこと、社会に参加する
ことに高いハードルを感じている青年が、
働きながら学ぶことのできるパン工房です。
パンを作るところから売るところまで、たく
さんの仕事があり、その一つ一つにたく
さんの人々との豊かな出会いがあります。



風のすみか農場

小麦やじゃがいもなどパンの原材料をつくる併設農場。
古民家を宿舎にした共同生活体験、環境教育プログラム。

「風のすみか」の原材料生産農場として、
パン工房オープンと同時に活動がスタート
しました。パン工房と同様、働くことに不安
を抱え、踏み出せずにいる若者たちが協
力して、パンの原材料となる小麦や種
々の野菜の栽培に取り組んでいます。活
動の拠点となっている築150年の古民
家では、食事作りや風呂焚き、掃除と
いった家事を分担しながら、日々の農
家生活を満喫できます。



若者のための総合相談窓口

みたか地域若者サポートステーション

Mitaka Youth Support Station



働きたいけど働けないでいる
あなたの最初の勇気を応援します
風のすみが

三鷹駅
MITAKA STATION

ホテル業界
航空業界
医薬品業界
外食産業
食品業界

そろそろ働きたいと考え出しているあなた
どこに相談に行ってもいいのが分からず困っているあなた
あるいは、仕事に就いても長続きせずすぐにやめてしまうあなた
サポステは働きたいのに働けないでいるあなたの
最初の二歩を支えるための総合相談センターです
あなたの過去は問いません
あなたの新しい自分づくりと仕事探しへの挑戦を心から応援します

※すべての相談サービスは予約制・無料です。

■利用時間

月・火・木・金・土
(日・水・祭日休館)
OPEN 11:00~CLOSE 17:00まずは電話やメールで、
もちろんフラッと立ち寄ってくれるのも
大歓迎です！

↓↓携帯サイトへアクセス



0422-70-5067

<http://www.npobunka.net/mitakayss/>
mitakayss@npobunka.net

【移転いたしました】

新住所：
東京都三鷹市下連雀 4-15-31JR 三鷹駅南口より
中央通りを徒歩 10分サポステはNPO文化学習協同ネットワークが
三鷹市と連携して実施している厚生労働省から
の委託事業です。



サポステが支援できること…それは

「相談にのる」と「つなげる」こと

経験豊かなユースアドバイザー(YA)が相談に応じます!

スタート

相談窓口



あなたの悩みや希望を聞きながらサポステの支援について説明します。

進路相談



あなた自身のための「キャリア形成プラン」を作成します。

しごと体験



職場見学、インターンシップなどしごとについて学ぶワークショップをいろいろ実施します。

心の相談



人間関係の悩みや、自信がもてない悩みなど、心の悩みについて相談に応じます。

職業技能講習



パソコン講習は講座終了後には資格検定を受験することができます。

就職セミナー



社会常識やマナーの講習、履歴書の書き方などを修得するセミナーを実施します。

要望があれば他の医療機関福祉機関につなげます

ハローワークやジョブカフェなどの他の就職支援機関につなげます

わが子に悩む親御さんに…

- 保護者セミナー…若者の理解、就職支援の(月1回) あり方についての講座や講演
- 保護者相談室…お子さんの状況を聞きながら(予約制) 支援のあり方についての相談
- 家庭訪問支援…さまざまな事情から必要な(必要に応じて) 家庭での相談支援

交流スペース

コミュニケーションに不安のある人、いろいろな人や世界に出会ってみたい人のためのフリースペースです。

出会いのワークショップ
ボランティア・スポーツ

みたか地域若者サポートステーション

武蔵野市引きこもりサポート事業 「それいゆ」
家族セミナー

ひきこもる若者の理解とその支援

我が子への対応でお困りの方、それを支える支援者の方へ
若者の理解と向き合い方についての講座を開きます。

日 時

2010年5月15日(土) 14:00~16:30

講 師

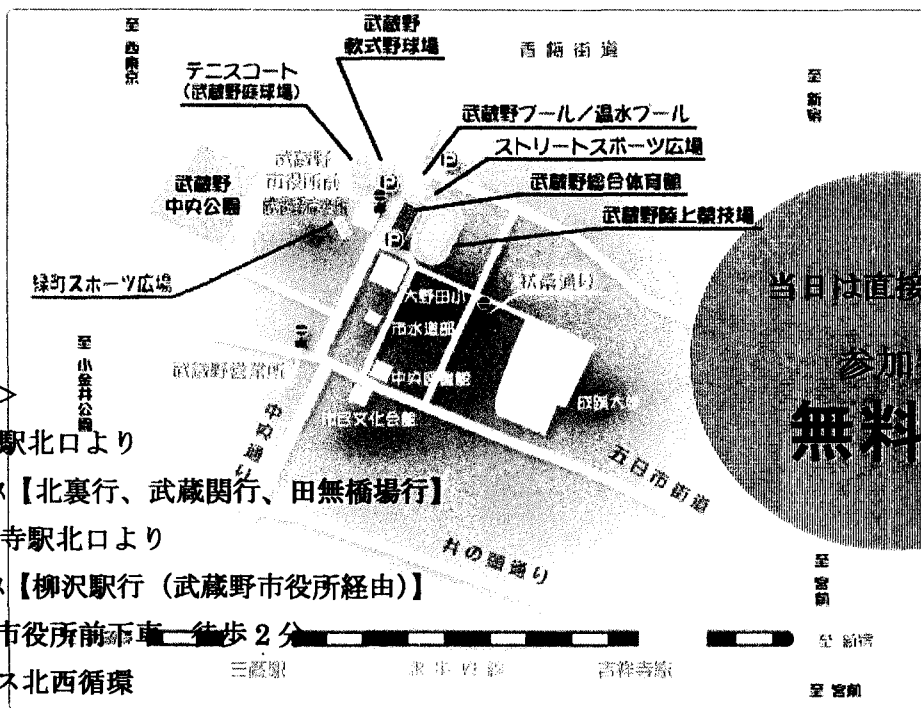
佐藤洋作 (協同ネット代表理事)

場 所

武蔵野総合体育館 3F視聴覚室
武蔵野市吉祥寺北町5-11-20

<アクセス>

- JR 三鷹駅北口より
→ 関東バス【北裏行、武蔵関行、田無橋場行】
- JR 吉祥寺駅北口より
→ 関東バス【柳沢駅行 (武蔵野市役所経由)】
武蔵野市役所前下車 徒歩2分
- ムーバス北西循環
33 扶桑通り下車 徒歩5分



お問い合わせ

特定非営利活動法人
文化学習協同ネットワーク

TEL:0422-70-5067

FAX:0422-29-9571

Mail:mitakayss@npobunka.net

主催/武蔵野市 企画・運営/特定非営利活動法人 文化学習協同ネットワーク

コンパスとは

ひきこもり等の若者の社会参加を応援するため、東京都がNPO法人等との協働により、支援を行うネットワークをいいます。

協同ネットのほか、次の団体が担当しています。

- NPO 法人 青少年自立援助センター（福生）
<http://home.interlink.or.jp/~ysc/>
- NPO 法人 星槎教育研究所（神楽坂）
<http://seisa.ed.jp/np/index.html>
- NPO 法人 「育て上げ」ネット（立川）
<http://www.sodateage.net>

コンパスの支援目的

- 社会参加に向けて、自信と能力が向上されること。
- 様々な経験を通じて、将来の方向性を考える機会となること。

コンパスの支援内容

訪問相談

外に出ることが難しい場合、自宅等に訪問して相談に応じます。

フリースペース

自宅以外の居場所を運営します。

社会体験活動

ボランティアなどの様々な社会体験活動を行います。

このうち、協同ネットはフリースペースを用意しています。

コンパスの支援対象者

都内在住の15歳（中学卒業後）から概ね34歳までの方と
そのご家族が対象となります。

特定非営利活動法人 文化学習協同ネットワーク

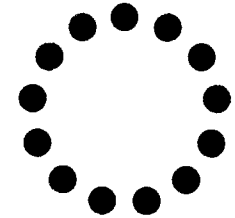
〒181-0013 東京都三鷹市下連雀 1-14-3

TEL : 0422-47-8706

FAX : 0422-47-8709

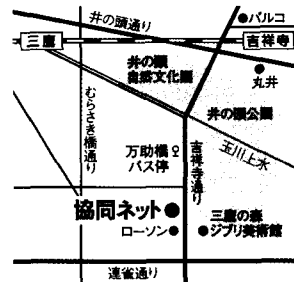
E-mail : compass@npobunka.net

ホームページ <http://www.npobunka.net/>



KYODO NET

協同ネットの
若者の居場所



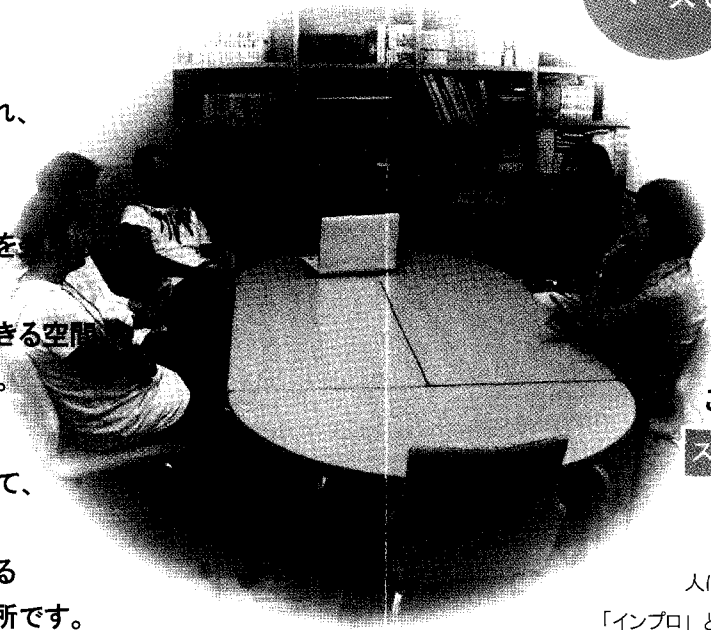
JR 三鷹駅 / 京王・JR 吉祥寺駅から徒歩 15 分
三鷹駅発三鷹シティバス「ジブリ美術館前」下車
吉祥寺駅発すべてのバス「万助橋」下車

若者の社会参加・自立を支える居場所

(東京都委託事業)

苦しみや悩みなど、
どんなことでも聴きとられ、
語り合い、
そしてに
自分の中にある可能性を
やがてそこから
飛び立っていくことのできる空間
それが「居場所」です。

コンパスは、
社会的自立の時を迎えて、
その入口で
立ちすくんでしまっている
若者たちのための居場所です。



あなたの
ベースで

一歩踏み出したい…

ひとりだと考えこんでしまう人、
働くにはまだ自信がないという人、
何をすればいいのかわからない人、
何もしていないのが不安な人、
のんびりした時間の中で
動いてみようかなと
感じ始めた人…
まずはコンパスに
顔を出してみませんか？

こんな企画も考えています！

スポーツ イベント 社会体験

フットサルなどのスポーツ交流、
食事づくりやDVD鑑賞会などのほか、
人に出会う、社会に出会う「プロジェクト」、
「インプロ」と呼ばれるコミュニケーションゲームなど、
協同ネットならではの企画を定期的実施します。
参加したいときにいつでも参加できます。

学 習

「学校に行けていない」
「これまで思うように勉強ができなかった」
といった学習の悩みもぜひ相談してください。
教師経験・教員免許を持つスタッフがサポートします！



一緒に
考える

経験豊かなユースアドバイザー (YA) が
あなたをさまざまなチャンスにつなげます。

どんなことをするの？

コンパスでの過ごし方は基本的に自由。
あなたが次の一歩を踏み出すために
必要な時間を過ごしましょう。
一人でじっくりと過ごすのでもいい。
仲間と話をしたり、
プログラムに参加したり、
あなたのペースとタイミングを大切に。



ちよつと
いってみよう

いつ開いているの？

月・火・木・金・土曜日 11:00 ~ 17:00
水・日曜日と祝日はお休みです。

TEL : 0422-47-8706
E-mail : compass@npobunka.net

参加費は無料です。
初回は面談の時間をとりますので、必ず連絡してください。

社会への
ステップ

居場所から広がる
社会参加・仲間たち。
次のステップも応援します！

協同ネットは、地域に広く開かれたセンター。
いろいろな人が、いろいろなかたちで関わっているから、
本当にたくさんの出会いがあります。
コンパスの中で少しずつエネルギーがたまってきたら
次のステップも応援します！

みたか地域 若者サポートステーション

そろそろ働いてみたいな、という若者のための
総合相談センター。キャリアサポートやハ
ローワークへの紹介などを行っています。
(厚生労働省委託事業)



若者自立塾 コスモワーキングスクール

寮での共同生活や労働体験を通して、自
立のための準備をしています。就労に向
けてのバックアップも充実しています。
(厚生労働省委託事業)



コミュニティベーカリー 風のすみか

地域の人々に安全な材料でつくったおいし
いパンを届けたい、というコンセプトのパン工
房。多くの研修生が働く仕事体験の場です。

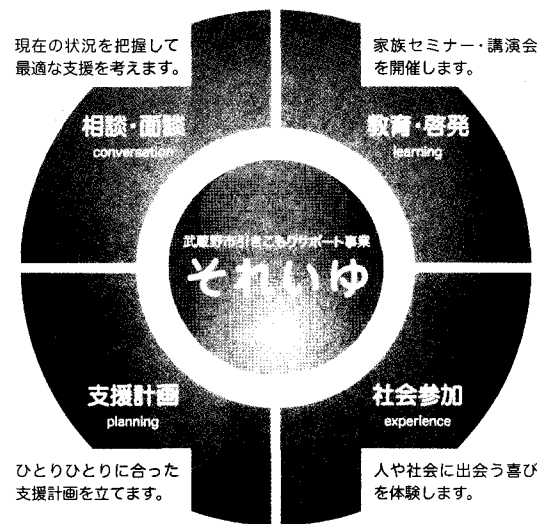


風のすみか農場

「風のすみか」の原材料となる小麦や野菜、
果物の生産農場。活動拠点となっている
古民家での共同生活体験も好評です。



「社会的ひきこもり」とは、
 社会的なつながりが断絶し、
 社会参加が困難な状態を指します。
 本人や家族の悩みに寄り添い、
 社会参加に向けた支援を行います。

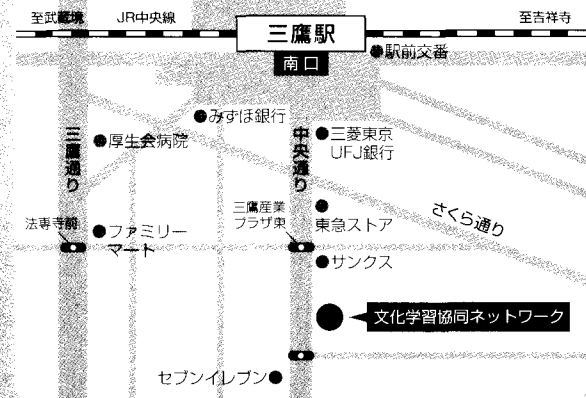


「社会的ひきこもり」を克服する支援を行います。

「社会的ひきこもり」という言葉があるのをご存知でしょうか。外出することはあっても家族以外の人との関わりがとて少ない状態のことをいいます。

私たちは、「社会的ひきこもり」に陥ってしまっても、社会参加したいというおもいを応援します。ひとりひとりのペースに合った支援を一緒に考え、必要に応じてさまざまな支援につなげます。若者の理解や社会資源の活用などについて、地域への啓発活動も行っています。

- 現状の把握・継続的な面談
- 個人に合わせた支援計画の作成
- 社会参加に向けたプログラムへ参加



武蔵野市引きこもりサポート事業 文化学習協同ネットワーク



特定非営利活動法人
文化学習協同ネットワーク

Tel. 0422-70-5652

<http://www.npobunka.net>



武蔵野市引きこもりサポート事業

それいゆ

KYODO NET
 特定非営利活動法人
 文化学習協同ネットワーク



特定非営利活動法人
文化学習協同ネットワーク

社会参加に向けた相談支援

悩みをもつ若者とその家族を対象に相談支援を行います。

今、目の前にある課題は人によって違うものです。ですから、あなたに合ったやり方やペースと一緒に考えます。

受付時間：月・火・木・金・土 11:00~17:00(相談は予約制)

相談費用：無料

若者たちの心のエネルギーを少しずつ高めながら、さまざまなプログラムに丁寧につなげます。

電話受付

まずはお電話ください。

電話相談

電話で現在の状態を簡単にお聞きし、どのような支援が可能かを考えます。

来所面談

協同ネットの相談窓口で悩みや希望を聞きながら継続的に面談を行います。

医師の協力が
必要な場合は…

◆ 主治医との連携

医療が必要な方は医師と相談しながら支援計画を考えていきます。

家庭への訪問が
必要な場合は…

◆ 訪問相談

必要と判断した場合、本人または家族の同意のもとに家庭に訪問します。

支援計画作成

相談しながらひとりひとりに合った支援計画を立てます。

プログラムへの参加

社会参加に向けて動き出すための様々なプログラムに結びつけます。

出会いのワークショップ

コミュニケーションを目的としたフットサルや社会参加体験などを行います。

1 フットサル

パスをつないで心もつながる！

運動の苦手な人も女の子でも「みんなが楽しめる」を目標に、月2回フットサルを開催しています。

一緒に体を動かしましょう！！



2 社会参加体験

人や社会に出会う楽しさを！

人や社会と出会うのって、ホントは楽しいことですよ！

この地域のなかで生きていくって、気持ちイカかもしれません！



教育・啓発活動

悩みをもつご家族のために、家族セミナー・講演会を開催します。気分転換も兼ねて出かけてみませんか。聴いて帰るだけでもかまいません。どうぞご参加ください。

※セミナー・講演会についての詳細はお問い合わせください。

社会資源活用によるネットワークづくり

就労支援機関

- ハローワーク
- 東京しごとセンター ヤングコーナー
- 障害者就労支援センター など

医療・福祉との連携

- 医療機関(病院、クリニックなど)
- 精神保健福祉センター
- 福祉事務所
- 児童相談所
- 東京都発達障害者支援センター
- 障害者生活支援センター など

教育・行政との連携

- 教育相談/各担当窓口

協同ネットが実施するその他の事業

若者支援事業 … 社会参加を目指す若者を応援します！

厚生労働省委託事業

01 みたか若者サポートステーション

社会参加に向けた若者を応援するための情報が集まる場所です。迷ったり悩んだりしたらまず相談。就労準備プログラムとしてパソコン講座、就労準備講座(経理事務、学童保育、高齢者福祉)、就活講座(履歴書の書き方、模擬面接会)などがあります。



Tel.0422-70-5067

厚生労働省委託事業

02 コスモワーキングスクール

若者が働きながら働くことを学び、社会参加を目指す場所です。研修施設としてパン屋と農場があります。研修生とスタッフと、生活を共にしながら働く喜びや、働く自信を手にしてもらえるようにサポートします。



Tel.0422-70-5068

東京都若者社会参加応援ネット

03 コンパス

人や社会との緩やかな出会いの場、社会参加に向けて動き出すための根拠地としての居場所です。同じ時代を生きる同じ悩みをもった仲間たちが利用しています。

Tel.0422-29-9570

第2回研究会での議論において、「社会的居場所」という概念の広さゆえに各委員がイメージする「居場所」観が違い、議論の混乱を招いているように感じました。

そこで、「社会的居場所」を以下の2つに類型化するのが良いのではないかと考えました。

	プログラム型	サロン型
利用者	特定	不特定
関係性	援助関係が固定 (援助者・非援助者が明確)	援助関係が固定していない (援助者・非援助者の逆転もある)
指向性	個別援助を重視	空間の雰囲気重視
効果測定	可能	困難

この類型化によれば、行政による自立支援プログラムは「プログラム型」。〈もやい〉のサロン事業は「サロン型」ということになります。

「サロン型」の居場所では、「出入り自由であること」「参加者の属性（生活保護受給など）が問われないこと」が参加者にとっての魅力になります。〈もやい〉のサロンでは、どの利用者が生活保護受給者なのかといったことは本人が言わない限りわかりません（スタッフも知らない場合がある）。参加者の匿名性が担保されることは、小さな公共空間としてのサロンの存在意義ですが、他方で外部からの効果測定は困難になります。

ただ、この2つは完全に分けられるものではありません。参加者を特定しない〈もやい〉のサロンも、野宿経験者や生活保護受給者を主たるターゲット層にして広報をしていますし、行政のプログラムにおいても、「スタッフが利用者エンパワーされる」という光景はしばしば見られます。

各居場所において程度の差こそあれ、「プログラムの要素」と「サロンの要素」が混在しており、場所によりどちらかの要素が優勢である、というのが現状だと思われませんが、2つの要素の本質的な違いを踏まえた上で議論を進めていくことが有効だと考えます。

*参考文献

石本雄真 (2009) 居場所概念の普及およびその研究と課題 神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要
<http://ci.nii.ac.jp/naid/110007337293>